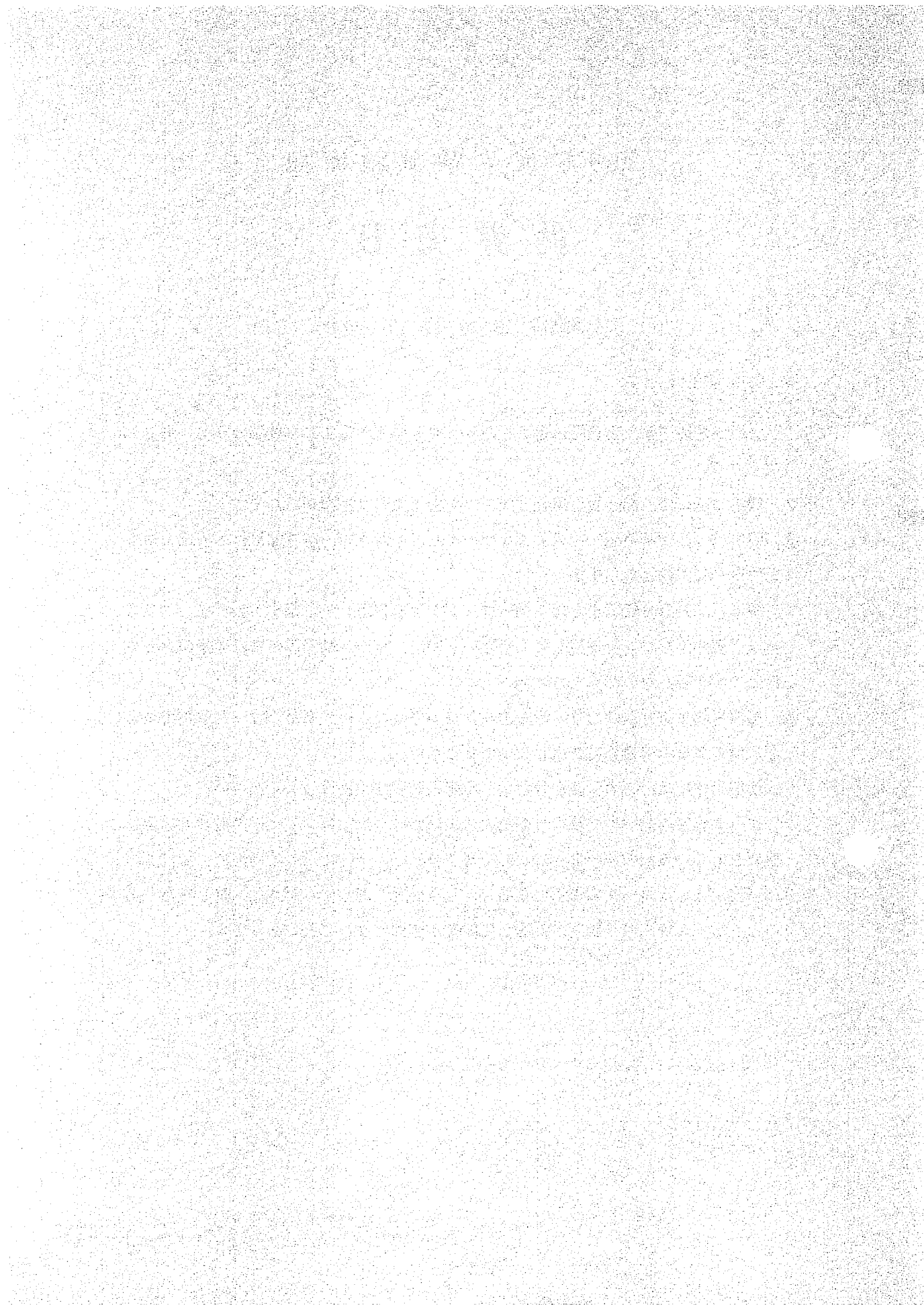


2019 年度 入学 試験 問題

世界史 B

(試験時間 10:30~11:30 60分)

1. この問題冊子が、出願時に選択した科目のものであることを確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙には、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類があります。
3. 解答は、必ず解答欄に記入およびマークしてください。解答欄以外への記入およびマークは無効となります。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。
5. 解答用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。また、マーク解答用紙を記述解答用紙の下敷きには使用しないでください。
6. 解答用紙には、必ず受験番号と氏名を記入およびマークしてください。
7. マーク解答用紙への受験番号の記入およびマークは、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないようにしてください。
8. 一度記入したマークを修正する場合、しっかりと消してください。消し残しがあると、マーク読み取り装置が反応して解答が無効となることがあります。



I つぎの文章は、朝鮮半島の歴史について述べたものである。よく読んで、下記の設問に答えなさい。なお、漢字は正確に書くこと。(36点)

前2世紀初頭、戦国時代の燕に仕えていた衛満が、朝鮮半島に王險城を都とする国をたてた。これが衛氏朝鮮の始まりとされる。衛氏朝鮮の勢力は一時遼東にまで及んだが、前108年、漢の武帝^(a)によって滅ぼされた。同年、武帝は、この地方に楽浪郡など朝鮮四郡を置いた。しかし、武帝が直接支配する楽浪郡をのぞいては、いずれの郡もしだいに衰えていった。

前1世紀頃には北方で狩猟民系の高句麗が勢力を拡大し、その後、後漢王朝から王の称号を認められるまでになった。3世紀初めになると、遼東で勢力をもった公孫氏が楽浪郡一帯を手中に収め、楽浪郡の南側を分けて(1)を置いた。公孫氏は3世紀半ばに魏に滅ぼされたが、楽浪郡は南下した高句麗によって313年^(b)に滅ぼされた。そして(1)は、同年頃、韓族によって滅ぼされた。

朝鮮半島南部では、3世紀頃、韓族の諸国が馬韓、辰韓、そして(2)と呼ばれる小国家群に分立していた。4世紀半ばには、馬韓の地に(3)、辰韓の地に新羅が成立し、中南部の地は伽耶諸国となった。以後、隆盛する高句麗と、勢力を拡大する(3)および新羅とが半島内で勢力を争った。三者の抗争は、7世紀になってもつづいたが、同世紀後半、新羅が唐と連合して(3)と高句麗を滅ぼし、終息した。その後、新羅^①は、半島内に残存していた唐の勢力を排除し、676年に半島の統一を果たした。この統一新羅は、唐の冊封を受け、中華文明を受容しながら中央集権の体制をつくりあげ、王都に居住する人々に適用される独自の身分制度によって貴族中心の社会秩序を整えた。

一方、唐・新羅の連合軍に滅ぼされた高句麗の遺民の多くは、唐によって營州に移されていたが、そこに居住していた契丹族が反乱を起こすと、これに乗じて高句麗遺民も離反して故国の地に向かった。唐は彼らの自立を阻止すべく追討軍を派遣したが、高句麗遺民は唐軍の排除に成功し、698年、国^(c)をたてるに至った。この国は、唐の制度を取り入れて栄えたが、926年に契丹に攻め入れられ、降伏した。

朝鮮半島では、10世紀になると新羅が分裂し、918年、地方豪族の(4)が高麗^②を建国した。(4)はその後新羅を併合し、936年^(d)に半島の統一を完成させ

た。高麗では、仏教が国教として保護された。また、科挙が採用され官僚制度が整備され、官僚層中心の国家運営がおこなわれた。高麗青磁が開発されたり、金属活字が発明されたりと、独自の文化の発展もあった。しかし12世紀以降、王権が弱化するとともに、各地で反乱・一揆が起こった。そうしたなか、12世紀後半に武官が反乱を起こし、同世紀末に武官の崔氏による武人政権が成立した。崔氏による武人政権は60年あまりつづいたが、1259年、それまでも再三の侵入を受けながら抵抗を重ねてきたモンゴル^(e)について降伏し、高麗はモンゴルに服属することとなった。

14世紀半ば、大陸では元が衰え、1368年に明^(f)がおこった。これ以降、元に服属していた高麗では親元派と親明派が対立することになったが、やがて、倭寇をうちやぶって名声を高めていた(5)が、親元派を追放し、1392年に朝鮮王朝^③をたてた。朝鮮王朝は、明と冊封関係を結び、明にならって官僚制を整備するとともに、朱子学をとりいれるなどした。第3代太宗から第4代(6)の時代にかけて、中央集権的支配体制の基礎が確立した。しかし15世紀以降、官僚層の間に党争が始まり、しだいに激化していった。

官僚層における争いが激化するなか、朝鮮は、後期倭寇の襲来を受けた。さらに、1592年には、豊臣秀吉の大軍の侵入を受けた。朝鮮はこれにより一時制圧されたが、海上での李舜臣^(g)ひきいる水軍による抵抗、陸上での国王への忠義を掲げる民間の義兵による奇襲攻撃などにより、秀吉軍に打撃を与えた。また、明の援軍による反撃もあり、秀吉軍は帰国した。その後1597年^(h)、秀吉はふたたび大軍を朝鮮に派遣した。しかし、ふたたび李舜臣ひきいる水軍による抵抗などを受け、秀吉軍は翌年8月の秀吉の病死を機に撤退した。

設問1 空欄(1～6)に入るもっとも適切な語句を答えなさい。なお、(4)
(5)(6)には人名が入る。

設問2 下線部(a)について。武帝に関する記述として誤っているものはどれか。2つ選んで記号で答えなさい。

- ア. 郡県制と封建制を併用する郡国制をはじめて採用した。
- イ. 南越を滅ぼし日南郡など9郡をおいた。
- ウ. 大月氏と同盟を結び匈奴を滅ぼした。
- エ. 地方官庁の長官が官吏候補者を中央に推薦するという、郷举里選と呼ばれる官吏任用制度を実施した。
- オ. 五経の解釈と教授を主宰する官職として、五経博士を設置した。

設問3 下線部(b)について。4世紀前半の出来事として正しいものはどれか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① アッティラがひきいるフン人の軍が西ローマとゲルマンの連合軍に敗れた。
- ② アルダシール1世がパルティアを破った。
- ③ コンスタンティヌス帝がミラノ勅令を發布した。
- ④ チャンドラグプタ2世が北インドの大部分を統一した。
- ⑤ 司馬炎が晋をたてた。

設問4 下線部(c)について。①この国の建国者は誰か。その名前を答えなさい。また、②この人物は、高句麗遺民のほか、当時中国東北地方で有力であったツングース系部族の民をひきいてこの国をたてたが、このツングース系部族を何というか。その名称を答えなさい。

設問5 下線部(d)について。この翌年の937年に白蛮系の豪族が南詔滅亡後の雲南地方に建国し、1254年にフビライひきいるモンゴル軍に降伏して滅びた国を何というか。その名称を答えなさい。

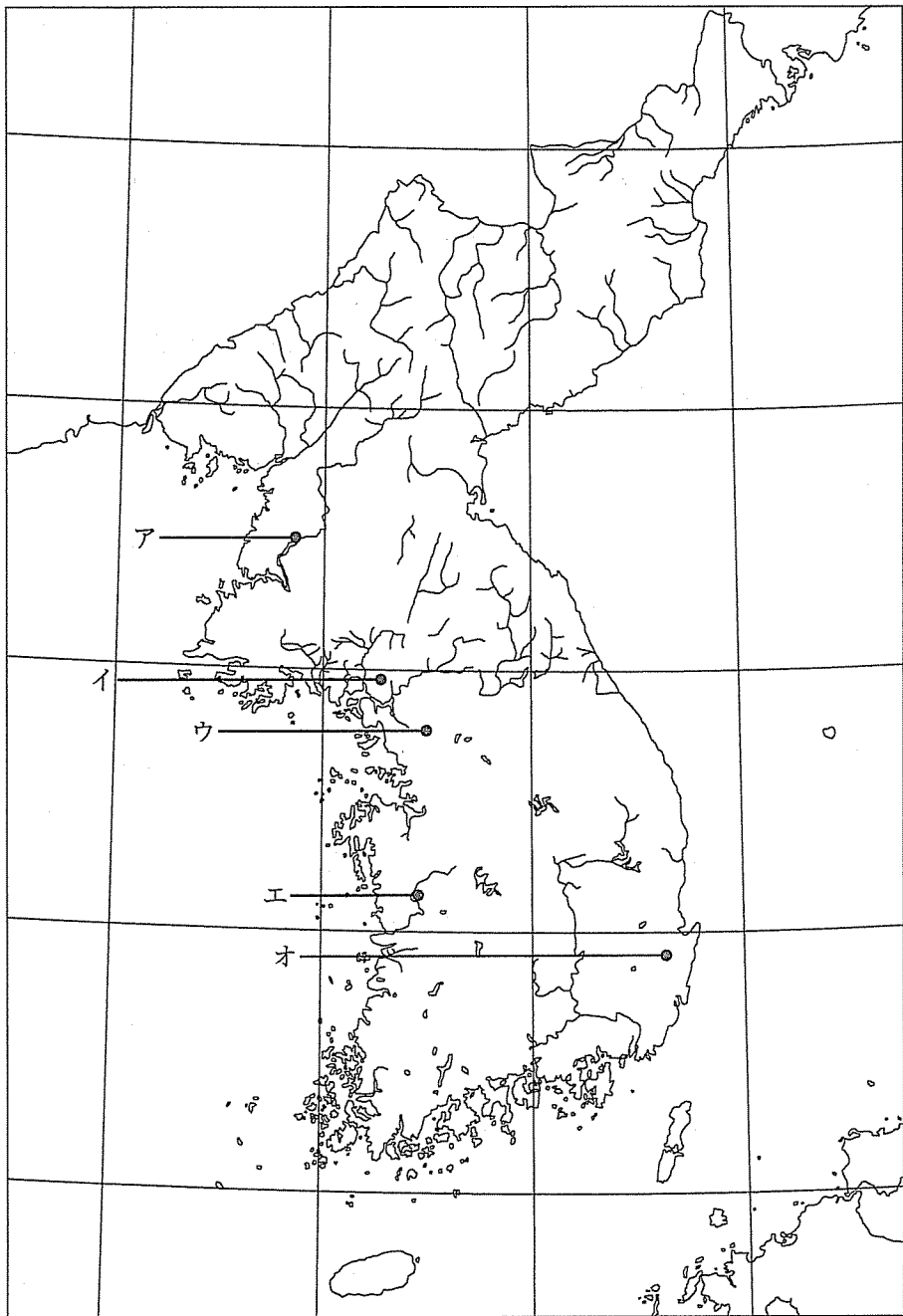
設問6 下線部(e)について。モンゴル帝国は、チンギス=ハンの時代から駅伝制を整え利用した。この駅伝制は何とよばれているか。その名称を答えなさい。

設問7 下線部(f)について。明初，日本では，遣唐使停止以来とだえていた中国への朝貢が復活し，当時の将軍が明から「日本国王」の称号を受けたが，この将軍は誰か。その名前を答えなさい。

設問8 下線部(g)について。接舷して斬りこむ倭寇への対策から開発され，李舜臣ひきいる水軍でも用いられた，甲板を厚板でおおった軍艦は何といわれるか。その名称を答えなさい。

設問9 下線部(h)について。この出来事の日本側の呼称を答えなさい。

設問10 下線部①新羅，②高麗，③朝鮮王朝それぞれの都の名称を答えなさい。また，それぞれの都の位置を，次ページの地図上の記号で答えなさい。



II つぎの文章は、ヨーロッパ中部の都市、ウィーンの歴史について述べたものである。よく読んで、下記の設問に答えなさい。(34点)

現在のオーストリア共和国の首都ウィーンは、(1)川流域の、ヨーロッパのほぼ中央に位置する。そのため、この都市は古くから今日に至るまで、東西の文化が会う場として、発展を遂げてきた。

この都市の起源は、古代ローマ人により前1世紀頃に軍事的な拠点として築かれたことにある。民族大移動と西ローマ帝国の崩壊以降、史料に登場することはほとんどなくなったが、12世紀中頃にバーベンベルク家が本格的に居を移すと、シュテファン寺院やショットテン修道院などが建てられ、都市としての威容を整え始めた。交易上有利な立地から、ワイン交易など、商業的にも発展した。十字軍の駐屯地として多くの兵士が都市の周辺に滞在したことも、経済の活性化に結び付いた。

13世紀の後半に、後に神聖ローマ帝国の皇帝位を事実上世襲することとなるハプスブルク家がこの都市に拠点を移して以降、ウィーンはヨーロッパ史の表舞台に躍り出ることとなる。14世紀後半にはウィーン大学が設立され、周辺地域から数多くの若者がウィーンに集まった。ハプスブルク家が婚姻政策によって支配領域を広げ、カール5世の下で世界的規模の大帝国を築いた頃、ウィーンを統治したカールの弟フェルディナントは、市民の自治を奪い、以降、19世紀に至るまで、ウィーンは皇帝に直接支配された。

神聖ローマ帝国の「東方辺境領」として発展したオーストリア地域は、より東方からの脅威の最前線でもあった。古くはマジャール人を中心としたハンガリーの圧力にさらされた。後にハプスブルク家はハンガリー王位を得てその地を支配下に置いたが、16世紀と17世紀には、オスマン帝国による2度の包囲を経験した。

(b) ウィーンを襲った脅威は、外からのみもたらされたわけではなかった。1348年を中心(c) にヨーロッパ全体でペスト(黒死病)が流行した際には、ウィーンでも数多くの市民が命を落とした。その際には、「ユダヤ人が井戸に毒を入れた」なる流言が広まり、多くのユダヤ人が迫害され、死に追いやられた。(d) 中世末から近世初期にかけて、ペストの流行は相次ぎ、その都度、多数の犠牲者が出た。今日でも、犠牲者をしのぶ数々の建造物が残されている。

オスマン帝国の脅威が去ると、ウィーンは都市としてさらなる発展を遂げた。マリア=テレジアとその息子ヨーゼフ2世の時代には、集権的な近代国家建設を目指すハプスブルク家の統治の中心として、ウィーンには行政機構が集中した。芸術や文化も保護された。今日もなおウィーンが「音楽の都」と称されるのは、モーツァルトやベートーヴェンなど、この時代の前後にウィーンで活躍した音楽家たちの成果とは切り離せない。

フランス革命ののち、ナポレオンによって神聖ローマ帝国が公式に解体されると、ウィーンはオーストリア帝国の首都として、「ウィーン体制」と呼ばれる国際秩序の中心地の一つとなった。オーストリア帝国の宰相であった（ 2 ）は、周辺諸国の諸君主と協調して、自由主義的な改革の芽を摘んだ。しかし、1848年にフランスに端を発する革命がヨーロッパ各国に飛び火し、ウィーンでも民衆が蜂起すると、（ 2 ）はイギリスに亡命した。この年に即位したフランツ=ヨーゼフ1世の下で、オーストリアはサルデーニャやプロイセンとの戦争に敗れ、国際的な地位を低下させた。それでもなお、ウィーンは、中欧に位置する広大な帝国の首都として、東西各地から様々な文化的背景を持つ人々を惹きつけた。とりわけ、19世紀末から20世紀初頭には、音楽のみならず、絵画や建築、あるいは学術などの領域で独自の文化を開花させた。

そのころのウィーンでは、ドイツ人とチェコ人による言語をめぐる争いが展開された。独自の文化や言語の承認を求めるチェコ人は、帝国議会で積極的に活動し、ドイツ語の主導性を信じて疑わないドイツ人たちと対立した。両者の対立が帝国の崩壊にただちに結び付いたわけではない。しかし、第一次世界大戦が勃発して以降、難民の流入による食糧不足や当局の密告奨励が民族間の疑心暗鬼を煽ったことで、民族対立が激化して、帝国は崩壊に至る。ハプスブルク家の皇位継承者の暗殺に端を発した第一次世界大戦は、いくつもの帝国を崩壊させて、1919年にヴェルサイユ条約などの条約締結を経て、終結した。

帝国の崩壊により、ウィーンは、突如、大帝国の首都から、人口わずか700万人弱の小共和国の首都となった。大戦の直前には人口200万人を超えた大都市は、終戦後いくらか人口を減らしたものの、新たな共和国には不釣り合いな規模であった。小国の未来に悲観的な人々は、ドイツとの「合邦」を望んだ。オーストリアがドイツに併

合される際にドイツの総統（ 3 ）が多くの人々に歓呼で迎えられた背景には、こうした事実がある。

1945年にドイツから解放されたウィーンは、戦勝4カ国による占領を経て、1955年に独立を果たした。「バルト海のシュテッティンからアドリア海のトリエステまで」を直線で結ぶとすれば、その直線の東方に位置するウィーンは、永世中立国オーストリアの首都として、東西の懸け橋としての役割に新たなアイデンティティを見出した。1961年には、アメリカ合衆国のケネディ大統領とソ連の（ 4 ）第一書記という、後にキューバ危機の際に対峙する首脳に会談の場を提供した。PLOやOPECなど、中東諸国とかかわりをもつ機関の代表部、事務局もウィーンに設置された。また、1956年のハンガリー事件、あるいは、1968年の「プラハの春」へのソ連軍の介入に際しては、両国から積極的に難民を受け入れるなど、東西の融和に役割を見出した。

冷戦が終結して以降、こうしたアイデンティティは岐路に立っている。ユーゴスラ⁽¹⁾ヴィアの内戦に伴い難民が増加すると、それに反対する排外的な勢力がウィーンでも支持を集めた。それでも、この都市は今なおコスモポリタンな雰囲気醸し出しながら、東西ヨーロッパを結ぶ役割を果たし続けている。

設問1 空欄（1～4）に入るもっとも適切な語句を答えなさい。なお、（2）（3）（4）には人名が入る。

設問2 下線部(a)について。つぎのうち、古代ローマ時代に既に都市として建設されていたものでない都市はどれか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① ロンドン ② ケルン ③ ベルリン ④ マルセイユ ⑤ パリ

設問3 下線部(b)について。2度のウィーン包囲の前後に起こった、オスマン帝国にかかわる出来事の記述として、誤っているものはどれか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① コンスタンティノーブルを攻略してビザンツ帝国を滅ぼした。
- ② プレヴェザの海戦でスペイン・ヴェネツィア連合艦隊を破った。
- ③ レパントの海戦でスペインなどの連合艦隊を破った。
- ④ 帝国内のフランス人に、最初のカピチュレーションが公認された。
- ⑤ カルロヴィッツ条約によって、バルカン半島北部の領土を失った。

設問4 下線部(c)について。14世紀のペスト（黒死病）の流行による大幅な人口減少がヨーロッパ社会に及ぼした影響の記述として、もっとも適切なものはどれか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① 人口減少に対応するために重量有輪犁が発明され、牛馬による土地の耕作が普及した。
- ② 農村の労働力不足を受けて、多くの領主が農民の法的な地位を向上させ、自身の領地へとどまることを促した。
- ③ 都市の人口減少による商業の停滞を恐れた皇帝は、都市を保護するため、特許状を発して、これまで一切認めてこなかった都市の自治を容認した。
- ④ 疫病を神の災いと考える人々の宗教的な熱意が教会の権威を押し上げ、各国の国王もこれに従ったので、教皇の権威が最高潮に達した。
- ⑤ 人口減少に伴い農村の活力が低下したため、これ以降、農民による大規模な蜂起は全く起こらなくなった。

設問5 下線部(d)について。古代から近代にいたるユダヤ人に関する記述として、正しいものはどれか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① ユダヤ教は、1世紀頃パレスティナの地域で誕生し、神の愛がすべての人に及ぶことを説いた。
- ② 中世においては、土地所有を禁じられたこともあり、多くのユダヤ人が商業や金融業、徴税請負などを生業とした。そのことが人々からの反感を買う原因ともなった。
- ③ 近代以降、ユダヤ教からキリスト教に改宗したユダヤ人は差別から逃れた。しかし、ユダヤ教の信仰を維持した人々は一層厳しい迫害にさらされた。
- ④ 近代のフランスでは、同じ時代のドイツに比べて反ユダヤ主義は著しく弱かった。そのため、ドレフュス事件の際には、世論はユダヤ系軍人のドレフュスを全面的に支持した。
- ⑤ ヒトラーは権力獲得後、ユダヤ人の虐殺を組織的に進めた。その被害者の1人に、ドイツ国内の強制収容所で命を落とした、ノーベル物理学賞受賞者のアインシュタインがいる。

設問6 下線部(e)について。ヨーゼフ2世の性急な改革の多くは挫折したと評される。その原因について、当時のハプスブルク家の支配地の事情を踏まえつつ、40字以内で説明しなさい。

設問7 下線部(f)について。1848年の出来事の記述として、正しいものはどれか。

1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① イギリスではチャーチスト運動の盛り上がりにより、すべての成人男性に選挙権が認められた。
- ② フランスでは、ルイ=ナポレオンがクーデタをおこし、独裁権を握った。
- ③ ドイツでは、フランクフルトで国民議会が開始され、憲法制定などが議論された。
- ④ ベルギーでオランダからの独立を目指す運動が勃発し、後の独立に結実した。
- ⑤ オーストリア支配からの自立をめざしていたスイスの独立が、各国から承認された。

設問8 下線部(g)について。これらの戦争に関する記述として、正しいものはどれか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① サルデーニャ王国は、イギリスと密約をかわし、オーストリアに宣戦した。
- ② オーストリアを破ったサルデーニャ王国は、ミラノやトリエステなど諸都市を併合し、イタリア王国を建国した。
- ③ オーストリアは小ドイツ主義に基づくドイツ統一を主張して、プロイセンと争った。
- ④ プロイセンは、オーストリアが中世以来領有してきたシュレスヴィヒとホルシュタインの併合を目指して、オーストリアに宣戦した。
- ⑤ プロイセンとの戦争に敗れたオーストリアは、ハンガリーと協定を締結して、オーストリア=ハンガリー帝国が成立した。

設問9 下線部(h)について。19世紀末から20世紀初頭にかけては、経済的な繁栄と平和を背景に、ウィーンに限らず、ヨーロッパ各地で新たな文化・芸術が開花した。フランス語の「よい時代」を意味し、この時代を称する語は何か。その名称を答えなさい。

設問10 下線部(i)について。第一次世界大戦を通じて崩壊した帝国に関する記述として、もっとも適切なものはどれか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① ロシア帝国では、ブレスト=リトフスク条約に反対する民衆が蜂起し、皇帝ニコライ2世が退位した。
- ② ソヴィエト政権は、ロシア帝国支配領域からバルト三国とウクライナが独立することを承認した。
- ③ ドイツ帝国では、キール軍港における水兵の蜂起をきっかけに国内各地で革命が起こり、共和国の樹立が宣言され、皇帝ヴィルヘルム2世は亡命した。
- ④ オスマン帝国の崩壊後、ムスタファ=ケマル（のちのケマル=アタチュルク）はトルコ共和国の大統領となり、イスラーム主義的な政教一致を実現した。
- ⑤ ハプスブルク家の支配領域からは、オーストリアに加えて、新たにチェコスロヴァキア・ハンガリー・ルーマニアが独立した。

設問11 下線部(j)について。次の記述(あ～う)は、ドイツによるオーストリア併合後の出来事である。起こった順番に並び替えたものとして、正しいものはどれか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

あ. ドイツによるチェコスロヴァキア西部の併合と東部の保護国化(チェコスロヴァキア解体)

い. ミュンヘン会談

う. ドイツによるポーランド侵攻

① あ→い→う

② あ→う→い

③ い→あ→う

④ い→う→あ

⑤ う→あ→い

⑥ う→い→あ

設問12 下線部(k)について。1993年に、PLOのアラファト議長が、イスラエルのラビン首相と結んだパレスティナ暫定自治協定は、締結に至る交渉がおこなわれた地にちなんで、別名、何と呼ばれるか。その名称を答えなさい。

設問13 下線部(1)について。ユーゴスラヴィアに関するつぎの記述のうち誤っているものはどれか。1つ選んで、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ① 1918年、セルビア人・クロアチア人・スロヴェニア人が南スラブ人としてまとまってオスマン帝国から独立した。
- ② 第二次世界大戦中、ティトーの指導の下でドイツに抵抗して、自力でナチス支配からの解放を実現した。
- ③ 同国の都市ベオグラードでは、1961年に第1回非同盟諸国首脳会議が開催された。
- ④ 冷戦の終結後、クロアチアとスロヴェニアが分離を宣言したため、それに反対するセルビアとの間で内戦が勃発した。
- ⑤ 冷戦後に勃発した内戦はボスニア=ヘルツェゴヴィナにも拡大し、キリスト教徒のセルビア人・クロアチア人と、イスラーム教徒（ムスリム）の3者間の対立が激化した。

Ⅲ つぎの文章（A～D）は、中世から近世にかけてのヨーロッパにおける大学と諸都市について述べたものである。よく読んで、下記の設問に答えなさい。（30点）

A ヨーロッパ中世の10世紀頃にかけて、カトリック教会の権威は絶対的なものとなり、その頃には、修道院の果たす精神文化上の役割がきわめて大きくなっていった。したがって、当時の学問体系の中では、神学が優越的な地位を占めており、また古代哲学を利用して教会の権威を理論的に支える学問として（1）が^(a)発達した。

11世紀に、イスラームの（2）朝の支配下に入ったイェルサレムを奪回するためにキリスト教勢力が十字軍を起し、その遠征を機に、12世紀には、ギリシア時代の古典がギリシア語や^(b)（3）語から^(c)ラテン語に翻訳されるなど、学術文化がヨーロッパで盛んになった。このような刺激を受けて、教会や修道院における教育を起源として、ヨーロッパの諸都市に大学が成立した。

中世の大学は、自治権を有する^(e)ギルド的な組織により運営された。教師と学生のギルドがユニヴェルシタス（大学）であった。初期の大学は、教師のもとに学生がヨーロッパ中から集まり、教師・学生の出身地ばかりではなく、教授資格や学位も、国際的な性格であった。主要な大学には、神学部のほかには法学部と医学部が設けられ（主要3学部）、また自由7科として文法・弁証・修辞・算術・幾何・天文・音楽という基礎課程が多くの大学で設置された。神学部では、フランスのパリ大学が、法学部では、11世紀に成立したイタリアの（4）大学が著名であった。

B イギリスでは11～13世紀にかけて、オックスフォード大学およびケンブリッジ大学が設立され、これらの大学は、それぞれ（5）という独特な寄宿舎制度に基づいて発達した。14世紀後半、オックスフォード大学教授のウィクリフは、聖書を信仰の最高の権威として聖書の英訳を主張し、教皇の権威を否定した。

ウィクリフの考えに共鳴したプラハ大学教授のフスは、カトリック教会を批判して聖書のチェコ語訳やドイツ人司教の追放をおこなったが、（6）公会議においてウィクリフとともに異端と宣告され、焚刑に処された。

C ドイツでは、神聖ローマ帝国下の14世紀半ばに大学設立が始まり、君主による設立（ウィーン大学など）のほか、都市の経済繁栄を背景として、都市による大学の設立（エルフルト大学など）が相次いだ。ドイツの大学は、そのため、国際的な性格を有することなく、地域的・領邦的な存在であった。

16世紀の宗教改革^(f)の後に、ドイツでは、領邦ごとにキリスト教の宗派を決められるようになり、17世紀末に啓蒙主義の影響を受けて大学改革がなされるとともに、プロテスタントの諸邦で大学が設立された（ゲッティンゲン大学など）。以降、ドイツでは、大学が学問的研究と教育を結び付ける場となり、貴族層にも大学で法律を学んで官職に就こうとする者が多く現れた。また、大学は、新興の上層市民が旧来の支配層に対して社会的に上昇するための基盤となった。

D 17世紀頃のフランスでは、貴族層が学識を積んでいく場はあくまで宮廷社会であって、大学ではなかった。フランスの大学は、古い構造のままであり、イタリアやスペインの大学と同じく聖職者の影響下に置かれ、その本質は中世と変わらなかった。そのため大学はしだいに衰退し、学問的研究は、むしろ大学の外でおこなわれるようになった。ルイ13世のもとで宰相となった（7）によって、17世紀にアカデミー＝フランセーズが設立され、その後フランス学士院に統合・再編された。こうして大学の外で活躍する知識人たちが、学問的研究を担い、自然科学の知見を深め、さらに、人間の理性を重視する啓蒙思想^(g)を展開した。

設問1 空欄（1～7）に入るもっとも適切な語句を答えなさい。なお、（7）には人名が入る。

設問2 下線部(a)について。中世ヨーロッパで活躍した学者とその学者の主要な業績について記述した文として、誤っているものはどれか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① アンセルムスは、実在論を唱えた。
- ② ロジャー=ベーコンは、観察や実験など、自然科学的な方法を重視した。
- ③ トマス=アクィナスは、『神学大全』を著した。
- ④ アベラールは、人間の認識を重視し、唯名論（名目論）を唱えた。
- ⑤ ウィリアム=オブ=オッカムは、信仰と理性の統一を説いた。

設問3 下線部(b)について。①ビザンツ皇帝の要請を受けて聖地回復のために会議を招集した教皇は誰か。また、②その会議は何というか。その教皇の名前および会議の名称を答えなさい。

設問4 下線部(c)について。十字軍の遠征により、東方との交易が盛んになり、11世紀から12世紀に、北イタリアの諸都市が遠隔地貿易によって繁栄した。貿易の拠点となったヴェネツィアを経て、当時、東方から西ヨーロッパにもたらされた商品として、もっとも適切なものはどれか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① 木材・海産物など生活必需品
- ② 綿花・麻など製糸原料
- ③ コーヒー・タバコなど嗜好品
- ④ 香辛料・絹織物など奢侈品
- ⑤ 紅茶・中国茶など茶葉

設問5 下線部(d)について。フランク王国の王が西ヨーロッパ各地から学者や聖職者を宮廷に招いたことに端を発する、ラテン語による文芸復興の運動を何というか。その名称を答えなさい。

設問 6 下線部(e)について。中世のギルドには、遠隔地貿易に従事した大商人が結成した商人ギルドや、手工業者が結成した同職ギルド（ツンフト）がある。これらのギルドを結成した目的は何であったか。30字以内で述べなさい。

設問 7 下線部(f)について。プロテスタントの領邦諸侯は、信教の自由を守るために、諸都市と同盟を結んで神聖ローマ帝国皇帝カール5世に対抗した。その同盟を何というか。その名称を答えなさい。

設問 8 下線部(g)について。啓蒙思想家に関する記述として、誤っているものはどれか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① モンテスキューは、『社会契約論』の中でイギリスの憲政を讃えた。
- ② ヴォルテールは、『哲学書簡』の中でイギリスを賛美し、民衆への不満から平等を否定した。
- ③ ルソーは、自由平等と人民主権を説き、イギリスを民主化が不十分であると批判した。
- ④ デイドロとダランベールらは、『百科全書』を編集し、啓蒙思想の普及を助けた。
- ⑤ コンドルセは、数学を用いて、民主的な意思決定に指針を与えることを目指した。

0

0

—

—